

# リンゴ褐斑病に対する各種殺菌剤の固着性展着剤 (アビオン-E) 加用による耐雨性向上効果

近年、東北地方においても集中豪雨の頻度が多くなっており、防除薬剤の耐雨性が懸念されます。そこで、人工降雨装置により集中豪雨を再現した中で、夏季に使用されるリンゴ褐斑病防除薬剤を対象に、固着性展着剤アビオン-Eの加用による効果を検討したところ、耐雨性向上効果が確認されたので紹介します。

## 1 固着性展着剤 (アビオン-E) 加用による耐雨性向上効果

短時間強雨条件下で、表1の各種殺菌剤に対し、固着性展着剤アビオン-E 2,000倍を加用すると、**耐雨性が向上し、防除効果が低下しにくくなります。**

表1 固着性展着剤アビオン-E 2,000倍加用による耐雨性向上効果 (令和5~6年 青森りんご研)

試験回次	供試殺菌剤		供試展着剤		調査葉数	発病葉率 (%)	発病度	防除価
	殺菌剤名	希釈倍数	供試展着剤名	希釈倍数				
試験1	オーソサイド水和剤	800倍	アビオン-E	2,000倍	29.0	28.0	7.5	85.2
			マイリノー	10,000倍	25.8	54.8	17.7	65.0
			無加用	—	30.2	59.0	17.7	65.1
	無散布	—	—	29.0	94.0	50.7	—	
試験2	ラビライト水和剤	500倍	アビオン-E	2,000倍	41.8	6.3	1.3	95.6
			マイリノー	10,000倍	40.2	14.8	3.7	87.1
			無加用	—	42.0	25.4	6.1	78.8
	無散布	—	—	34.6	64.6	28.9	—	
試験3	アリエッティC水和剤	800倍	アビオン-E	2,000倍	37.4	23.1	5.2	78.9
			マイリノー	10,000倍	37.4	39.2	8.7	64.6
			無加用	—	36.6	47.7	12.2	50.4
	ダイパワー水和剤	1,000倍	アビオン-E	2,000倍	38.0	13.1	2.6	89.4
			マイリノー	10,000倍	34.8	52.9	14.2	42.3
			無加用	—	38.0	51.6	13.3	45.9
	無散布	—	—	35.0	76.2	24.6	—	

\*ポット植え「ふじ」/マルバカイドウ (5反復) に各薬剤をハンドスプレーで散布した。薬剤散布翌日に人工降雨装置を用いて100 mm/時×1時間の降雨条件に曝し、その翌日に褐斑病菌を接種した。接種約2週間後に新梢全葉を対象に調査し、発病葉率と発病度を求め、防除価を発病度から算出した。発病指数は0:発生なし、1:病斑数1~5個、2:同6~10個、3:同11~30個、4:31個以上、5:落葉。発病度 =  $\Sigma(\text{発病指数} \times \text{葉数}) / (\text{調査葉数} \times 5) \times 100$ 。薬剤散布日は、試験1が令和5年9月3日、試験2が同年9月18日、試験3が令和6年9月1日。

## 2 固着性展着剤 (アビオン-E) 加用区における果面の外観

6月中旬から固着性展着剤 (アビオン-E) を加用することにより、散布後に薬斑が残りにやすくなる場合がありますが、その程度は軽微であり、実用上の問題はありません。



「つがる」 (アビオン-E加用区)



「つがる」 (対照区)



「ふじ」 (アビオン-E加用区)

\*現地圃場において、「つがる」は令和7年9月3日、「ふじ」は同年10月8日に撮影した。生産者、JA、展着剤メーカーの担当者で複数回果実を確認し、実用上の問題がないことを確認した。6月25日~9月3日の全ての散布において、アビオン-E 2,000倍を加用した (対照区はネオエステリン10,000倍を加用)。



お問い合わせ りんご研究所 病害虫管理部 (Tel 0172-53-6132)

詳細は令和8年度参考となる研究成果「リンゴ褐斑病に対する各種殺菌剤の耐雨性評価及び固着性展着剤 (アビオン-E) 加用による耐雨性向上効果」をご参照ください。

青森産技 あおもりの未来 技術でサポート